第６学年Ｂ組 外国語科学習指導案

授　業　者　　山﨑　麻絵（HRT）、藤田　練（ALT）
研究協力者　　佐々木　雅子

１　単元名　Original menu for you!　心も体も喜ばせたい！

２　子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、５年生の「Unit ６　What would you like?」で、食事メニューを友達と注文したり会計し合ったりしながら、丁寧な表現を使って聞いたり伝え合ったりすることを通して、コミュニケーションの楽しさを感じることができた。

また、６年生の「Unit １　This is me!」では、自分のことを伝え相手のことをよく知るために、名前や好きなことなどを英語で伝え合うことができた。さらに「Unit ３　Let's go to Italy.」では、自分がおすすめしたい国について調べ、ICT を活用して映像資料を準備し理由とともに発表したり、友達がすすめる国について聞いたりすることができた。自分の伝えたいことを相手に配慮しながら主体的に伝えたいという意欲が高まっている。

その一方で、自分のことを伝えることだけに満足し、相手が話す内容から新しい発見をしたり相手のことを知ろうと質問したりなどしながら聞くことができず、自分の表現を振り返ったり、学んだことを次の活動に取り入れたりするまでに至っていない子どもも見られた。

(2) 単元について

本単元では、**自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、その場で伝え合うこと**を目指す。

より相手に合ったメニューを提案するために、英語を用いて誰とでもその場でやり取りができるようになるというゴールに向けて、自分の気持ちを伝えるにはどんな表現がよいか考えたり、相手のことをよく知るためには何を質問したらよいのか考えたりしながら伝え合う資質・能力を高めていく姿を期待して、本単元を設定した。

相手とのやり取りにおいて、自分の気持ちに応じて相手の思いを受け入れたり交渉をしたりする時に、どんな表現を使えばよいのか考えることが「学びのものさし」になると考える。様々な相手とのやり取りを積み重ね、自分が自信をもって使える表現を増やしながら、相手に合わせて伝え合うことが「学びのものさし」を更新している姿であると捉える。

(3) 指導について

単元の導入時に、メニュー作りへの意欲と相手意識と高めるために、その人物ならではのメニュー例を HRT と ALT のやり取りで提示する。意外性のあるメニューで関心を高め、その人物が誰なのか考えることを通して、相手を意識したメニューを提案するためには、相手の得意なことを質問したり栄養バランスを考慮したりなど、相手とのその場のやり取りが大切であることに気付くようにする。

自分が提案したいメニューを基に相手とやり取りをすることを通して、その場で質問をしたり答えたりすることができるようになるという「見方・考え方」を働かせながら、食べた物や産地、栄養グループについての表現に慣れ親しむ活動を積み重ねる。

本時の導入では、メニュー作りのために必要な情報を相手から引き出したり自分から伝えたりできるように、HRT と ALT のやり取りを提示する。その後、ペアでやり取りをする活動を行い、中間評価の場では、より相手を意識したやり取りを提示することで、「学びのものさし」を更新しながら表現の幅を広げることができるようにする。

このような活動を繰り返すことで、より相手に寄り添ったやり取りができるようにする。英語を用いて、誰とでもその場で、相手のことをよく知った上で、その相手ならではのオリジナルメニューを作り上げていく喜びが感じられるようにしたい。

３　単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取り、自分のことや身近な事柄について伝え合う技能を身に付けている。〈２・12〉

(2) 自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、その場で伝え合っている。〈14・20〉

(3) 相手に提案したいメニューを考えるのに必要な情報を得るために、相手とのよりよいコミュニケーションを意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。〈イ・オ〉

4　単元の構想（総時数７時間）

「Unit６　What would you like?（５年生）」・「Unit１　This is me!」・「Unit３　Let's go to Italy.」
自分や相手のこと、おすすめの国やその理由などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

↓

本単元

時間	学習活動 （・は予想される子どもの姿）	教師の主な支援	評価 〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1) 自分が提案したいメニューの基を作るために、やり取りを聞いて、メニューに関する表現や語句を知る。 ・栄養バランスがよいメニューにしよう。 ・どんなメニューだと喜んでくれるのかな。 ・英語では何と言うのかな。	・相手に合ったメニューを提案したいという目的意識がもてるよう、HRTとALTが質問したり紹介したりするやり取りを提示する。	・人物の得意なことやメニューについて尋ねたり答えたりする語句や表現を聞き取っている。〈2〉
	【単元のゴール】　心も体も喜ばせられるオリジナルメニューを考えよう。		
2	(2) 普段食べている物や食材の産地についての言い方を知り、尋ね合う。 ・What did you eat ～? / I ate ～. ・What do you usually ～? ・Where is ～ from? / ～ is from ～.	・様々な相手にメニューを提案することができるように、普段食べている物や食材の産地などを言い表す表現を用いて尋ね合う活動を設定する。	・食べた物や食材の産地について聞いたり伝えたりする語句や表現に慣れ親しんでいる。〈2、12、イ〉
3	(3) 栄養グループの言い方を知り、伝え合う。 ・～ is in the yellow/red/green group. ・～ is good for ～. ・どの食べ物にどんな働きがあったかな。 ・栄養バランスを考えることも大切だな。	・栄養についてもその場で伝え合うことができるように、色分けされた食材カードを準備する。	・食材の栄養グループについて聞いたり伝えたりする語句や表現に慣れ親しんでいる。〈2、12、イ〉
4 **本時**	(4) 相手のことをよく知るためにインタビューし合う。 ・Do you like ～? ・What ～ do you like? ・What did you eat ～? / I ate ～. ・What do you usually ～? ・～ is from ～. ・～ is good for ～.	・相手とのやり取りを楽しみながらインタビューできるように、相手をよく知るために必要な表現を示したり、相手の返答に合わせてメニューを変えられるシートやシールを準備したりする。	・自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、その場で伝え合っている。〈14、オ〉
5 6	(5) 自分のメニューを提案したい相手にインタビューをし、より相手に合うようにメニューをバージョンアップする。	・産地や栄養グループなど、これまでの既習表現を事前に確認したり、必要な表現をすぐに確かめられるようなコーナーを用意する。	・相手に提案したいメニューを考えるために、質問したり答えたりしている。〈14、オ〉
7	(6) 相手に食べさせたいメニューを伝え合い、本単元の学びを振り返る。 ・This original menu is for you! ・相手のことを知るために英語でやり取りができた。 ・相手が変わっても、メニューを提案することができそう。	・相手とのやり取りを通して「相手のことを意識して伝え合うことができた」「使える表現が増えた」（学びのものさしの更新）などの視点を子どもたちと確認し、自己の学びを振り返ることができるようにする。	・インタビューの内容を生かして、相手に合ったメニューを伝え合っている。〈14、20、オ〉

◎本単元で育む主な資質・能力

自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、相手のことをよく知るためにその場で伝え合うことができる。〈14、オ〉

↓

「Unit８　My Future, My Dream」
自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、将来の目標や夢についてスピーチをし合う。

5　本時の実際（４／７）

(1) ねらい　相手のことをよく知るためのやり取りをする活動を通して、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の表現を用いて、その場で伝え合うことができる。　〈14・オ〉

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援　**評 価**
２分	①　本時のゴールを確認する。	・活動の見通しがもてるよう、前時までの活動を振り返る。
	Today's Goal 相手のことをよく知るために、相手に合わせて質問したり伝えたりしよう。	
８分	②　相手のことをよく知るためには、どのようなインタビューがよいのか考える。 ・好きな食べ物や、普段食べている物を聞こう。 ・相手の答えに質問をすると、よく知れそうだ。 ・提案したい理由として、食材の産地を伝えたい。 ・質問を続けるために、相手の答えに反応したい。	・必要な情報を相手から引き出したり自分から相手に伝える表現を用いたりした、インタビューのモデルを提示する。 ○どんなところがよかったのかを問い掛け、相手のことをよく知るために必要な英語表現を確認する。
15分	③　相手をよく知るためにインタビューをし合う。 〈予想される子どもの反応〉 【目的や相手意識から考えている】 ・昨日食べたものや食べ慣れているものから聞くと答えやすいかな。 ・好きな食べ物の理由も聞いておこう。 ・他のメニューの方が喜んでくれそうだな。 ▲相手の何を聞いたらよいのか分からない。 【英語表現から考えている】 ・What ～ do you like ？がよいのかな。 それとも、Do you like ～？がよいのかな。 ・～ is from ～.で産地を伝えてみよう。 ▲どんな〇〇が好きか聞きたいけど、分からない。 【伝え方から考えている】 ・メニューを指差したりイラストに描いたりして、Do you like it?で聞いてみたらどうかな。 ・相手の答えにリアクションしてみよう。 ▲英語で何と言えばよいか分からない。	○相手を変えてやり取りができる場を設け、複数の友達の表現に触れることで、よりよいやり取りに気付くことができるようにする。 ・自分が提案したいメニューを基に、相手に合わせてメニューを変えられるシートやシールを準備する。 ○既習表現を生かしながら活動ができるようにするために、これまでの学びの足跡を掲示する。 ・表現が分からず困っている子どもにその場で支援ができるように、HRT と ALT が見取る対象を分けておく。 ○中間評価の場を設定して、より相手を意識したやり取りにつながる表現を用いたり、切り返しの質問をして話題を広げたりしているペアの様子を、全体で取り上げ価値付ける。
15分	④　相手を意識したやり取りを確認し、それを踏まえて再度やり取りをしてみる。 ・伝え方を工夫すると、相手のことをよく知れた。 ・その人には、こんなメニューを提案しよう。 ・もっと聞いてみたい。	○相手のことをよく知るためのやり取りが、相手の心も体も喜ばせられる、その人ならではのメニュー作りに生かされることに気付かせ、インタビューへの意欲を高める。
５分	⑤　本時の学習を振り返る。 ・相手のことをもっとよく知ったら、食べさせたいメニューが浮かんできた。 ・相手を喜ばせるためには、どんなことを聞けばよいのかが分かった。 ・言い方が分かって自信がついた。 ・次は実際に相手を決めてインタビューしよう。	・「Today's Goal」を確認しながら振り返ることで、自己の変容に気付けるよう促す。 **互いのニーズや要望について、既習表現や自分の知る範囲の表現を用いて、その場で質問をしたり伝えたりしている。　〈14、オ〉** **（発言・振り返りシート）**

令和５年度　外国語科・外国語活動実践・研究計画

部　員	〇山﨑　麻絵、佐々木　絵理子、石田　智之、鎌田　雅子、丹　理人、猿田　千穂子、井上　駿太

研究テーマ
自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通して、外国語を用いたコミュニケーション能力を積極的に高めようとする子どもを育む学び

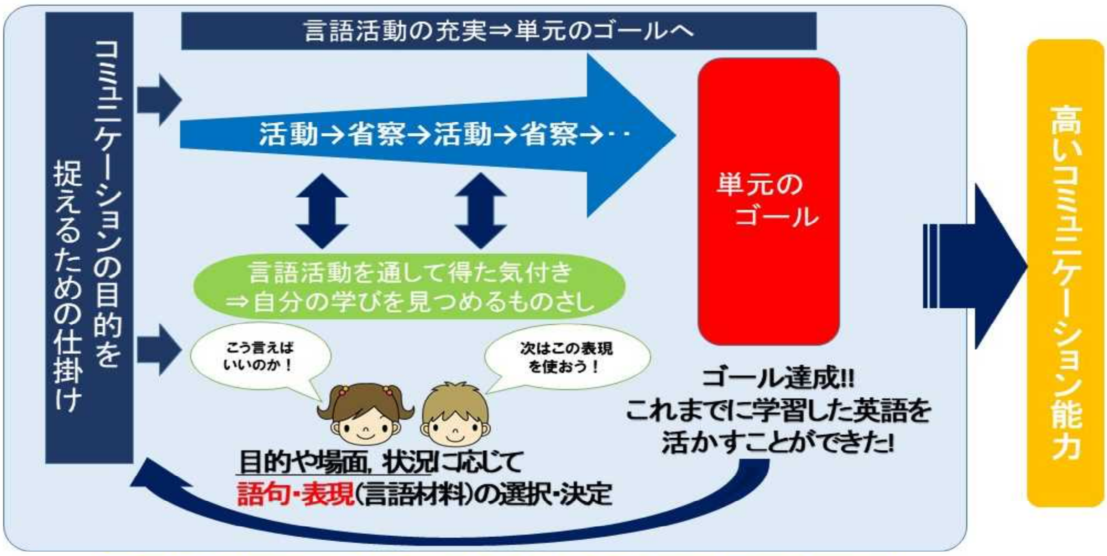
1　研究テーマについて

昨年度の実践では、子どもの思いや願いをコミュニケーション活動のゴールに据えた単元構想や、子どもと教師でルーブリックをつくりながら進める授業を行うことで、子どもが自分で設定したゴールを明確にもち、活動に取り組む姿が見られた。このことから、よりよいコミュニケーションを支える「学びのものさし」を、協働で見出すための手立てとして有効であることが見えてきた。その上で、よりよいコミュニケーションを実現するために自らの学びのものさしを更新していく手立てとして、自らの学びを深めていくための単元構想やＩＣＴの活用方法を探っていく必要がある。

こうした現状を踏まえ、外国語を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うことに喜びを感じ、主体的にコミュニケーションを図っていく姿を期待し、本研究テーマで実践を積み重ねていく。

また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、外国語で互いの考えや気持ちなどを、言語材料を駆使して理解したり、伝え合ったりするところに教科の本質があることから、コミュニケーションを捉えるための仕掛けを重要なものと捉え、単元のゴールを明確にして実践に取り組んでいきたい。

外国語科・外国語活動で目指す自律した子どもの姿
・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現を選択・決定し、言語材料を駆使して自分の考えや気持ちなどを伝え合う子どもの姿
・実際に外国語を用いて互いの考えや気持ちなどを伝え合う中で、内容面や言語面での新たな気付きを見いだし、次の学びへつなげようとする子どもの姿



図：外国語科・外国語活動　自律した学習者を育てる学習のプロセス

2　研究の重点　＜〇は具体的な取組の例＞

よりよいコミュニケーションを実現するために、自らの学びのものさしを更新していく手立て
〇学年の系統性をもたせたり、単元を組み合わせたりすることによって、子どもが表現するために用いる言語材料の幅を広げる。
〇ＩＣＴ機器やポートフォリオ（学習の成果物）を活用し、内容面や言語面での気付きを記録することを通して、次の学びにつながる省察の場を工夫する。

令和5年度 「外国語科・外国語活動の資質・能力」表

※□は取り扱い学年，■は定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容		3年	4年	5年	6年
			3・4年	5・6年				
外国語科・外国語活動の学びに向かう力，人間性等	ア	外国語の音声や文字，基本的な表現に慣れ親しもうとする。	全般	全般	□	□	■	■
	イ	よりよいコミュニケーションの仕方を意識して，進んで話したり聞いたりしようとする。	全般	聞くこと 話すこと［やり取り］	□	□	■	■
	ウ	外国語の文字や基本的な文のしくみに関心をもち，進んで書こうとする。		書くこと			■	■
	エ	慣れ親しんだ音声と文字を関連させて，基本的な表現・語彙からその意味を推測しながら読もうとする。		読むこと			■	■
	オ	慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて，実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。	全般	全般	□	□	■	■

各領域の付けたい力 聞くこと	1	ゆっくりはっきりと話された際に，自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取る。	（1）ア		□	□	■	■
	2	ゆっくりはっきりと話されれば，自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。		（1）ア			■	■
	3	ゆっくりはっきりと話された際に，身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かる。	（1）イ		□	□	■	■
	4	ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができる。		（1）イ			■	■
	5	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に，どの文字であるかが分かる。	（1）ウ		□	□	■	■
	6	ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，短い話の概要を捉えることができる。		（1）ウ			■	■
各領域の付けたい力 読むこと	7	活字体で書かれた文字を識別し，その読み方を発音することができる。		（2）ア			■	■
	8	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。		（2）イ			■	■
各領域の付けたい力 話すこと［やり取り］	9	基本的な表現を用いて挨拶，感謝，簡単な指示をしたり，それらに応じたりする。	(2)ア		□	□	■	■
	10	基本的な表現を用いて指示，依頼をしたり，それらに応じたりすることができる。		(3)ア			■	■
	11	自分のことや身の回りの物について，動作を交えながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う。	(2)イ		□	□	■	■
	12	日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。		(3)イ			■	■
	13	サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする。	(2)ウ		□	□	■	■
	14	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができる。		(3)ウ			■	■
各領域の付けたい力 話すこと［発表］	15	身の回りの物について，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)ア		□	□	■	■
	16	日常生活に関する身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		(4)ア			■	■
	17	自分のことについて，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)イ		□	□	■	■
	18	自分のことについて，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		(4)イ			■	■
	19	日常生活に関する身近で簡単な事柄について，人前で実物などを見せながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)ウ		□	□	■	■
	20	身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		(4)ウ			■	■
各領域の付けたい力 書くこと	21	大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。また，語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。		(5)ア			■	■
	22	自分のことや身近で簡単な事柄について，例文を参考に，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。		(5)イ			■	■

＜外国語科・外国語活動＞の学びを深める「見方・考え方」

a よりよいコミュニケーションのために「言語」に着目し，外国語の音声，文字，単語，表現，語順などに慣れ親しむ。

b よりよいコミュニケーションのために「文化理解」に着目し，外国語や相手，それらの背景にある文化を尊重し，相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。

c よりよいコミュニケーションのために「コミュニケーション方略」に着目し，言語の働き・役割を理解するとともに，非言語も含めた伝え方・聞き方の工夫をしようとする。

＜各領域の学びを深める「見方・考え方」＞

d 聞くこと　相手が伝えようとする話の内容に着目して，類推しながら大切な事柄が何かを考えて聞く。

e 読むこと　アルファベットの並びに着目して，音声で慣れ親しんだ基本表現や語句の意味が分かり，発音する。

f 話すこと［やり取り］　話題の内容や相手の表情などに着目して，基本的な表現や自分の知る範囲の表現，伝え方の工夫を組み合わせを考えて話す。

g 話すこと［発表］　話題の内容に着目して，伝えたいことを整理して基本的な表現や伝え方の工夫を組み合わせて話す。

h 書くこと　例文や語順に着目して，音声で慣れ親しんだ基本表現や語句を組み合わせて書く。

2023 秋田大学教育文化学部附属小学校 外国語・外国語活動部